

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 5 月 23 日現在

機関番号：10101

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2016

課題番号：26350746

研究課題名(和文)日英帝国主義に関する比較スポーツ史研究

研究課題名(英文)A Comparative Study for Sport History in terms of British and Japanese Imperialism

研究代表者

池田 恵子 (Ikeda, Keiko)

北海道大学・教育学研究院・教授

研究者番号：10273830

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,700,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は日英帝国主義を通じての比較スポーツ史研究を試みるものであり、大英帝国主義の影響が色濃く反映された20世紀初頭の日英同盟期における英国規範の日本的受容過程の有り様及び大日本帝国主義とスポーツの関係史を明らかにするものであった。とりわけ、文化ナショナリズムによって隠蔽されてしまうナショナルヒストリーに基づく従来の研究の盲点を示した。本研究の成果として、国際的な共同研究を通じて世界史の脈絡で展開した帝国主義とスポーツの因果関係について幾つかの著作を公表した。

研究成果の概要(英文)：This study attempted a comparative study for sport history in terms of British and Japanese Imperialism. In particular, it illustrated how the British moral codes, which were embedded by the influence of British Imperialism in the era of the Anglo-Japanese Alliance and concluded in the early 20th century, were merged into Japanese society through early sports activities. It also pointed out the inevitable blind spot that a national history or single research based on the unit of one country, provides, because the agency of cultural nationalism concealed the original roots. As an outcome of this study, some international cooperative studies which define the relationships between imperialism and sport history in the context of a world history were published.

研究分野：イギリススポーツ史

キーワード：スポーツ史 日英比較 帝国主義

1. 研究開始当初の背景

平成 23 年度から 25 年度にかけて行った科学研究費基盤研究 C「日独英比較スポーツ史研究—帝国主義からファシズムへ」を通して以下の拙稿を提示した。“The History of Sport in Japan: the British Influence through the Medium of Sport on Imperialism, Nationalism and Gender.” (Cambridge, 2011)、“The History of Sport in Japan: the British Influence through Sport on Nationalism”(Leicester, 2012)、“British Cultural Influence and Japan: Elizabeth Phillips Hughes’s Visit for Educational Research in 1901-02” (Taipei, 2013)、“Comparative Studies between Britain and Japan through the Impact of Elizabeth Phillips Hughes’ Lectures on Physical Exercises for Women to Japanese Society” Organized by Manchester Metropolitan University, (the Wychwood Park Conference Centre in Cheshire, 2013)。すなわち、日本帝国主義は、欧米がアジアを席卷した帝国主義的脈絡と不可分のものとして捉え直す必要があり、スポーツの世界においても西欧起源のスポーツ政策を模倣したが、日清、日露といった日清・日露戦争という二つの戦争の間に紹介された英国流スポーツ教育は大英帝国主義的解釈から免れ得ぬものであったことを指摘した。加えて、日英同盟（1902-1922）の時期には国民統合に資する文化規範が紹介され、外国の脅威を前に、潜在的な文化的ナショナリズムが成長した時期でもあり、英国的な教育規範は伝統的な日本的価値に合致するよう再解釈される必要があったことを明らかにした。顕著な例が「良妻賢母」という思想である。同時期において、英国のパブリックスクールの影響を受けたスポーツ教育思想、アスレティズムが日本流の新武士道、新士道といった概念によって再解釈されている。とりわけ、2013 年に公表した英国の教育者、日本の女子教育に影響を与えた E.P. ヒューズに関する論稿の中では、彼女が啓発

した「女性の身体運動」は、良妻賢母の思想に強く影響を与えた英国中流階級の女性教育理念に基づき、かつ英国中流階級の男性のエリートの教育理念を補強していることを示した。それらは初期のフェミニズムが有した保守的で帝国主義的な側面をわかりやすく投影するものであった。

2. 研究の目的

以上を受け、本研究は日英両国間のスポーツ史研究の比較・協同を試みるものである。とりわけ、これまでナショナル・ヒストリーのレベルで論じられてきた研究を世界的協同のもとで進行した帝国主義の世界史の中で、捉え直すことを意図した。この問題意識を継承しつつ、3 国の問題を 2 国に限定し、これまでの研究成果から派生した下記の問題点を個別焦点化し、より詳細な比較研究を試みるものである。なお、世紀転換期から日英同盟の有効期間内に焦点をあて、いかに文化ナショナリズムが教育政策に投影されたか、その構造を明らかにしたいと考える。

それには、帝国主義政策下における男子教育と女子教育に共通した目的を炙り出すことが重要になる。これまでフェミニズム史、ジェンダーとスポーツ史といった視野で捉えてきた女性スポーツの問題を、男女に共通する帝国主義政策の枠組みで捉え直すことにより、むしろジェンダーの構造がより鮮明になる。そのことは、大英帝国主義と日本帝国主義に共通したスポーツ政策を見出すことに等しく、それにより、世界史における帝国主義政策とスポーツの関係が明晰になる。

英国の教育家、E.P.ヒューズは、英国のパブリックスクールの影響を受けたスポーツ教育思想、アスレティズムが日本流の新武士道、新士道といった概念によって解釈されることの必要性を伝播の方法として重要に考えており、日英同盟期に日本に紹介されたヒューズの論稿は、こうした「伝統の創造」の事実を示している。同時に、女子の中等教

育理念であった「良妻賢母」も男子の中等教育理念であった「質実剛健」も、同じ根の思想に基づいていたことの一例を示している。ヒューズのケースのみならず、概して当時のスポーツ外交が、英国中流階級の価値観を反映するものであったという仮説を検証し、それにより、英国中流階級の男性のエリートの教育理念、初期のフェミニズムが有した保守的で帝国主義的な側面が日本に必要とされたことの因果関係を導くことが可能になる。

3. 研究の方法

(1) 国際的な研究協力体制の確立

申請者は、2010年の7ヵ月月間、以下の研究所に客員研究員として、長期滞在し、研究協力体制を構築してきた。

・英国ドウ・モンフォート大学人文学部 国際スポーツ史・文化研究所客員研究員

加えて、上記研究所以外の研究者との連絡体制として、Emeritus Professor James Anthony Mangan, at Strathclyde University, a Fellow of the Royal Historical Society 英国王立歴史学会名誉会員、IJHS 国際スポーツ史ジャーナル創始者との連携を開始した。

加えて2010年度の長期研修先である英国 De Montfort 大学 ICSHC 国際スポーツ史・文化研究所の所長として新たに就任した Martin Polley 氏の2014年3月の訪日を計画し、同年実行した。

(2) 一次資料の収集、分析概念を補強する二次資料の解説に努め以下の先行研究の解説にあたった。

William Kelly and James A. Mangan, eds. *New Geopolitics of Sport in East Asia* (Series: *Sport in the Global Society - Historical perspectives*), London & New York: Routledge, Routledge: London & New York, April, 2014.

James A. Mangan, ed. *'Manufactured' Masculinity: Making Imperial Manliness, Morality and Militarism* (Series: *Sport in the Global Society - Historical perspectives*),

London & New York: Routledge, April 2013.

上記所収論文の中では、J.A.Mangan 氏によるイントロダクション“Introduction: Eurocentric Lens Removed: Wilsonian Impetus”（西欧中心主義の排除）を掲げた視点がきわめて重要であり、すでに刊行前の原稿を研究協力者である著者より入手した。

(3) 一次資料の収集

一次資料としては、これまでの研究で明らかにした英国の教育家 E.P.Hughes が日本で残した論文に加えて、ヒューズ同様に、日英同盟期に来日した英国人とスポーツに関する言説が記載された書物を網羅的に整理した E.P.Hughes については以下のものを集約済である。

Hughes, E. P., 1901a. “Physical Exercise of Women I”, *Onna (Women)*, vol.1 no.10, pp.1-8.

Hughes, E. P., 1901b. “Physical Exercise of Women II”, *Onna (Women)*, vol.1 no.11, pp.1-6.

Hughes, E. P., 1902a. “Physical Modern British Ladies I”, *Onna (Women)*, vol.2 no.2, pp.10-17.

Hughes, E. P., 1902b. “Modern British Ladies II”, *Onna (Women)*, vol.2 no.3, pp.24-29.

Hughes, E. P., 1902c. A translation of her lecture, “Taisōhō-ni-tsuite” (On the Methods of Gymnastics) at the meeting for Nihon Taiiku-kai (Society of Japanese Physical Education) organized on 24 May 1902, Tokyo, Japan., *Taiiku (Physical Education)*, no.103, Tokyo: Dōbunkan, 25 June, pp.1-10.

Hughes, E. P., 1902d. “The Ethical Ideal of the English Public School Boy”, *Kokushi (Peoples who dedicated themselves to the Nation)*, No.41, pp.324-327.

Hughes, E. P., 1902e. A Japanese translation of “The Ethical Ideal of the English Public

School Boy.”, *Kokushi (Peoples who dedicated themselves to the Nation)*, No.42, pp.406-409.

Hughes, “The Russo-Japanese War and development of Japanese People”, *Katei Shūhō* (Weekly Journal of Home) No.23, p.6.

加えて、以下の復刻版も重要な一次資料として位置づけた。19世紀から20世紀初頭にかけての英国女性体育・スポーツに関する一次資料の復刻版である。全5巻本からなるものと全4巻からなるものの計9冊である。

- *Women's body, health and physical education in nineteenth to early twentieth-century Britain* / edited and introduced by Setsuko Kagawa (vol.1 *Changing attitude toward the physical health of women*/ vol.2 *Healthful exercises for women*/ vol.3 *Physical training from the medical point of view*/ vol.4 *Health statistics of women students and the popularity of cycling among women*/vol.5. *Modern sports and games for women*)
- The Victoria library for gentlewomen (1892)より *The gentlewoman's book of sports* 他4巻。

(4) 以上の資料に基づき、研究を総括するとともに、最終報告としての研究成果の公表に努めた。成果は学会発表および国際的な刊行物の刊行を目標とした。

学会発表: BSSH 英国スポーツ史学会(国内) ISHPES 国際体育スポーツ史学会、CESH ヨーロッパスポーツ史学会。

国際的な刊行物の刊行: *IJSH* およびそれに準ずる論集における担当章の執筆

4. 研究成果

研究成果は5の項目に記載の通り、学会発表3件および原著論文(雑誌論文および図書の刊行)計11件を通して明確にした。以下では、雑誌論文と図書2件を中心にその概要

を述べておきたい。

(1) 雑誌論文 “British Cultural Influence and Japan: Elizabeth Phillips Hughes’s Visit for Educational Research in 1901-1902.”の概要

要旨: 本論文では日本における理想の女性像は近代国民国家の教育的イデオロギーに即して創られた伝統であったことを示した。具体的には「良妻賢母」は英国中流階級の理想の女性像を参照しつつ、伝統的な日本の女性像の創出されたものであり、このことは男性の理想像である「質実剛健」が英国パブリックスクールにおけるシンプルマンリネスの模倣と対になる帝国主義フェミニズムの影響を受けていたことを示すことで明確にした。しかしながら、日清・日露戦争期の文化ナショナリズムは西欧起源を隠蔽する力学を伴った。このことが潜在的な問題を残すことにつながる。1901年から1902年に刊行されたE.P.ヒューズの著作は日本における男性および女性の理想像が英国中流階級の理想の影響を受けたものであることを示しており、そうした事実は初期のフェミニズムが帝国主義のイデオロギーから無縁であり得なかったことを示している。結果、当時の女子体育は初期の帝国主義的フェミニズムの範疇を越えないものであり、英国の場合、第一次世界大戦後、日本の場合は第二次世界大戦後の変容を次なる転換期とする必要がある。

(2) 論集における担当章 “Towards the Construction of a New Regionalism?- The End of East Asian Colonialism: Japanese Responses and Reactions to the Games of Asia”の概要

要旨: 本論文は和魂漢才から和魂洋才へと変化したアジア帝国主義の問題とスポーツの関係性を明らかにしたものである。極東選手権大会はアジアを巡る日本の覇権と中国、フィリピン(アメリカ)間の抗争として分析されがちであるがアジアにおける反日感情の醸成は世界的な当時の帝国主義の力学の中でその関係性を捉えることが重要である。これ

には大英帝国主義に倣った大日本帝国主義下のスポーツ政策の有り様が関与している。アジアを巡る地域主義と近年のスポーツを巡る報道は、こうした歴史を軽視するものであり、過去の帝国主義政策とスポーツの歴史を明確にすることが必要である。本稿ではアジア帝国主義を西欧における帝国主義との関連を加味した日英比較のパースペクティブを投じることにより新たな歴史的視座を提示している。

(3) 論集における担当章 “The History of Modern Sport in Japan: the British Influence through the Medium of Sport on Imperialism, Nationalism and Gender with Reference to the Works of J. A. Mangan”の概要

要旨：本論文は『運動界 *The Athletic World* (1897年7月—1900年4月)』が出版された時期の初期の日本におけるスポーツの有り様と英国との関係を明らかにしたものであり、質実剛健のルーツと英国パブリックスクールで顕著であったスポーツ教育思想、アスレティズムの関係を明らかにしている。とりわけ新士道と表現された創られた武士道がエリック・ホブズボウムおよびテレンス・レンジャーが言うところの「創られた伝統」としての側面に等しいことを明らかにしている。なお、英国の側からの視点は J.A.Mangan 氏との共著により全体を補完している。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計8件)

池田恵子 (Keiko Ikeda), “Exploring the Paradigm of Transnational History on Gender, Imperialism and Fascism beyond the Perspective of the Anglo-Japanese Relation”, CESH 2017, Proceedings, forthcoming, (2017 現在印刷中) [査読有].

池田恵子 (Keiko Ikeda), [書評] “Writing the Prizefight: Pierce Egan’s Boxiana World 2013 by David Snowdon”, *The International Journal of the History of Sport*, vol.33.no.6-7 (May 2016), pp.760-761.

<http://dx.doi.org/10.1080/0952-http://dx.doi.org/10.1080/0952> [査読無]

池田恵子 (Keiko Ikeda), [書評] “Zhouxiang, Lu, and Fan Hong. Sport and Nationalism in China. New York: Routledge, 2014”, *Journal of Sport History*, vol. 42 no. 3 (March 2016), pp. 465-467. [査読無]

池田恵子「英国女性スポーツ史研究にみるジェンダー空間の分析」『スポーツとジェンダー研究』14巻(2016年3月)、1-12頁 [招待論文、査読有]

池田恵子「英国における女性スポーツと日本」『現代スポーツ評論』33巻、(2015年11月)、48-59頁 [招待、査読無]。

池田恵子、[翻訳および解説]マーティン・ポリー著「スポーツと帝国・外交 19世紀及び20世紀における英国のインターナショナルなスポーツ」『西洋史学』255巻(2014年12月)、41-52頁 [査読有]。

池田恵子「身体とスポーツ - ジェンダーの歴史再考」『女性とジェンダーの歴史』第2号(2014.11)、65頁。 [査読無]

池田恵子 (Keiko Ikeda), “British Cultural Influence and Japan: Elizabeth Phillips Hughes’s Visit for Educational Research in 1901-1902”, *The International Journal of the History of Sport*, Vol. 31, No. 15, 2014, pp.1925-1938. DOI:

10.1080/09523367.2014.936393

[査読有]

[学会発表](計3件)

池田恵子 (Keiko Ikeda), “Exploring the Paradigm of Transnational History on Gender, Imperialism and Fascism beyond the Perspective of the Anglo-Japanese

Relation”, CESH 2016 ヨーロッパスポーツ史学会, Leicester, UK, September 6th, 2016 [Abstract 査読有].

船場大資・池田恵子 (Keiko Ikeda),

“Sporting Ethics and Bushido: The Soul of Japan (1900) written by Inazo Nitobe”, The 16th ISHPES 国際体育スポーツ史学会, Split, Croatia, August 20th, 2015 [Abstract 査読有].

池田恵子「英国女性スポーツ史研究にみるジェンダー空間の分析」JSSGS 日本スポーツとジェンダー学会、第14回大会、明治大学駿河台キャンパス(東京都千代田区)、2015年7月4日[招待講演]。

〔図書〕(計3件)

池田恵子 (Keiko Ikeda) & J.A.Mangan,

“Towards the Construction of a New Regionalism?- The End of East Asian Colonialism: Japanese Responses and Reactions to the Games of Asia”, in: *Japanese Imperialism: Politics and Sport in East Asia: Rejection, Resentment, Revanchism* edited by J.A. Mangan, Peter Horton, Tiamwei Ren and Gwang Ok, Palgrave Macmillan UK forthcoming (2017 現在印刷中) (査読無)

池田恵子(Keiko Ikeda), “The History of Modern Sport in Japan: the British Influence through the Medium of Sport on Imperialism, Nationalism and Gender with Reference to the Works of J. A. Mangan”, in: *Manliness and Morality: The Mangan Oeuvre: Global Reflections on J. A. Mangan's Studies of Masculinity, Imperialism and Militarism* edited by Peter Horton, Palgrave Macmillan UK; forthcoming (2017 現在印刷中).

池田恵子「スポーツ情報の拡大」『21世紀スポーツ大事典 Encyclopedia of Modern Sport』(担当執筆) 2015年1月、722-724頁(査読無)

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等 該当なし

6. 研究組織

(1) 研究代表者

池田 恵子 (Keiko Ikeda)
北海道大学・教育学研究院・教授
研究者番号：10273830

(2) 研究分担者 なし
()

研究者番号：

(3) 連携研究者 なし
()

研究者番号：

(4) 研究協力者

- Professor J.A. Mangan, Emeritus Professor, former Director of the International Research Centre for Sport, Socialisation and Society, University of Strathclyde, Scotland, UK.
- Professor Martin Polley, Director of ICSHC at De Montfort University, UK 他